

# 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」に係る研修会（授業研究会）を実施しました。

新たな学校教育準備プログラム推進事業  
通信 No.5

令和元年12月26日  
教育指導課教育課程係

## 「主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善研修」

國學院大學 人間開発学部初等教育科 教授 田村 学 氏

12月13日(金)に宮城野区の拠点校として実践に取り組んでいる仙台市立榴岡小学校(猪股亮文 校長先生)において公開研修会(授業公開)が行われました。

○1年4組・生活科  
「じぶんでできるよ」

授業者：伊藤 志保 教諭

○5年2組・総合的な学習の時間  
「榴岡を安心・安全で暮らしやすい町にしよう」

授業者：齋藤 浩平 教諭

研修会には、市内小中学校・公所関係から約100名の参加者がありました。



授業公開は2コマ設定され、児童は意欲的に日頃の学びの成果を披露することができました。



いずれの授業も参観する先生方が教室からあふれるほどで、隣の教室をサテライト会場として開放し、ビデオカメラで映し出した授業の様子を参観できるよう、今回も会場校より配慮いただきました。



その後、体育館において、会場校の先生方によるNITS(教職員支援機構)研修プランに基づくグループ研修が行われました。この研修は、模造紙上を「主体」「対話」「深い」の3つに分類(Yチャート)し、児童の学びの姿を書き出しながら、関連の深い学びを矢印でつないで結び付け、授業の振り返りを行うとともに、三つの学びの視点を養うものです。その後、ワールドカフェ方式で、対話を通じて他との差異を認識し共有する様子も参観しました。参加された先生方にとっては、自校での実践に向けて大いに参考となったようです。最後、7月に引き続きお招きいたしました田村教授より講話をいただきました。概要は以下のとおりです。

### 前回の研修から確認したいこと

「思考発信型」の授業への改善における3つのポイント⇒特に2(展開)、3(終末)について

- 1 (導入) ○課題を設定する(問題状況に対する違和感、理想状況に対する憧れ など)  
○見通しを持つ(学習の過程への見通し、学習の到達点への見通し など)
- 2 (展開) ○音声言語で学び合う  
・発話者数、発話回数、発話量⇒増やすだけではなく、その質を向上するよう取り組む  
発話内容、発話の関連(つながり)に意識が向けられる  
・子供の思考に寄り添う(自然に) ・情報の処理を助ける(意図的に)
- 3 (終末) ○文字言語で振り返る(長く書く)  
・事実の確認 ・関連性や一般化の生成 ・自己変容への気付き など

### 本時について(1・5年生共通)

「自分の言葉(音声言語)を使って語ろうとしていた」「文字言語でしっかりと書き表す力が付いてきた」  
⇒本時のような授業を丁寧に重ねることは、子どもたちの学力に大きく寄与することであり、重要なポイントである。

⇒PISAの調査結果(読解力に課題)からも明らかである

：「正解のないようなもの」に対して、自分の考えを説明・表現できるのか、その時に根拠や理由に基づいて語れるのか。つまり、「自分の考えを表現できるのか、文字言語に表せられるのか」ということが重要視されている。国語科だけではなく、総合的な学習の時間においても、探究的な学習に係る論文やレポート等を重視した言語活動の充実を図ることが求められている。

### 本時の改善のポイント

#### 【1年生】

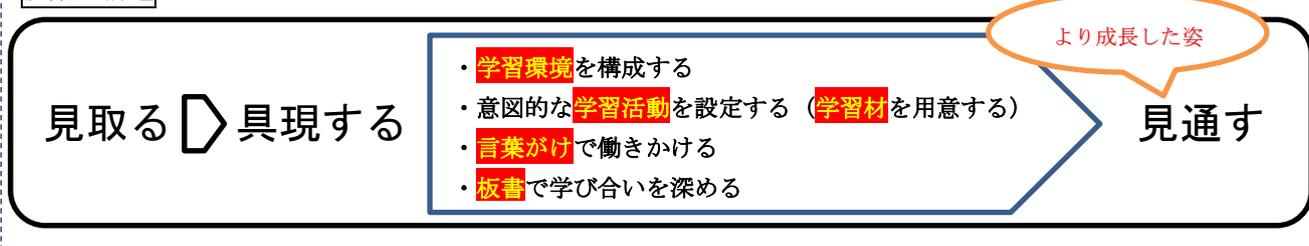
- ・手紙の配付⇒手紙そのものは大変有効。「ものすごい宝物が届いた」というぐらい演出を工夫し、真剣に読ませ、集中した静かな状況を作り出すことが授業環境としては大事である。

- ・板書の縦構造（児童一人だけとのやりとりが中心となってしまう）  
⇒話し合いを活性化するために、「心に残った言葉」を中心に置き、その感想や理由を「言葉」の周囲に書き出し、当該児童を含め他の児童からの意見も引き出す。そうすることで関わる児童が広がり、横の関係が作られていく。板書の構造が、教師の問い掛けや動きに大きく関わっていることを認識する必要がある。
- ・振り返り（「じぶんで できるよ」カードの記入）  
⇒低学年においては、「手紙の返事を書く」ことは、振り返る機能がそこに内在する主体的な表現活動となっていることを踏まえて取り組むことが有効である。

#### 【5年生】

- ・論点（マップ「全体」の議論ではなく、「枝葉」の議論となっていた）  
⇒（マップ全体に様々な情報が点在しているので、）情報の優先順位を決め、何を目立たせればよいかを整理するよう話し合いを導く必要があった。（「何のため」「誰のため」といった議論へ）
- ・（改善策を）書いている様子から⇒もっと書ける児童である。用紙を渡して30秒で「シーン」となることを目指してほしい。静かで集中した環境というものは、学ぶ上で快適であり、自身の学びを後押ししてくれるものである。

#### 授業の構造



### 授業づくり訪問②及び

#### 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善事業」授業研修会

仙台市教育センター 指導主事 志賀 有香 氏

仙台市立六郷中学校 教諭・教科指導員 小野寺 美香 氏

12月16日(月)に太白区の拠点校として実践に取り組んでいる仙台市立人來田中学校(佐藤丈春 校長先生)において公開研修会(授業公開)が行われました。

当日は、授業づくり訪問を兼ねていたため人來田中の先生方中心の研修会でしたが、近隣の小学校や泉区内中学校の先生方も10名ほど参加されました。

- 2年1組・社会科  
「アヘン戦争から江戸幕府が受けた影響」  
授業者：小澤 賢治 教諭
- 2年2組・理科  
「大気の動き」  
授業者：岩松 篤史 教諭



人來田中は、今年度「見通し」を持たせた学習活動の継続と効果的な「振り返り」の活動を研究の視点として取り組んでいます。特に効果的な「振り返り」を行うために、「いつ・どのように・何のために」といった点に着目させ、自己の変容の確認と次の学びへの見通しを持たせる取組を行っています。今回の公開となった2年生の社会科と理科の授業においても、指導過程の中に「見通し」「振り返り」を設け、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、それぞれの教科の見方・考え方を生かしたものとなっており、生徒の意欲的な学びの姿を参観できました。公開授業の後、各教科で分科会、その後、全体会を行いました。



全体会の最後に、志賀指導主事より指導・助言がありました。概要は以下のとおりです。

- 「主体的・対話的で深い学び」とは、「育成を目指す資質・能力」を身に付けるためのツールである。資質・能力を身に付けることがゴールだということを押さえたうえで、取り組んでほしい。
- 「生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること。」という新学習指導要領に基づき、「見通す・振り返る」といった学習活動を、導入時・終末時に限らず、計画的に取り入れることで、児童生徒の学習意欲の向上が図られ学習内容が確実に定着し、各教科等で目指す資質・能力の育成に資する、といった視点に基づき訪問を行ってきた。
- 校内研究に対する先生方の姿勢がよかった。学校としての協力・支援体制が整っており、チームとしての動きが大変感じられた。今後も生徒に考えさせる場面を作ったり、探究を促す疑問を投げ掛けてみたりすることで、「主体的・対話的で深い学び」が図られるよう取り組んでほしい。